

平成28年度 富山県担い手育成ほ場整備研修会

富山県構造改革推進ほ場整備研究会(会長 長原一夫 大門町土地改良区理事長)では、平成29年2月16日、射水市のアイザック小杉文化ホールにおいて「平成28年度富山県担い手育成ほ場整備研修会」を富山県農村整備課との共催で開催し、県内の土地改良区・担い手農家・営農組織・県関係者ら230名が参加されました。最初に長原会長の開会挨拶と、富山県高岡農林振興センター大橋所長から挨拶があり、その後研修に入りました。



研修内容は次のとおりです。

1. 本県でのスマート農業の推進について

富山県農林水産部農業技術課 研究・普及振興班 副主幹 吉田 稔 氏

富山県や国が進めるスマート農業の推進について、本県独自で実証試験をした結果なのも含め紹介された。特に水稻栽培を中心として、GPSやICT技術を取入れ、春の作業(トラクタ・田植機)から、水管理、草刈・除草、秋の収穫作業(コンバイン)まで、また農作業履歴・肥培管理・生産管理等をアシストするシステムなど、既に導入されているものから今後普及が見込まれるものまで、先進的な事例を紹介された。

2. 小矢部市土地改良区の多面的機能支払交付金事業への参画について

小矢部市土地改良区 工務管理課 係長 荒井 継治 氏

市内農用地の83%が取組む多面的機能支払交付金事業について、市や活動組織からの委託を受け、交付金事業の計画から実施状況報告までの土地改良区の関わりについて報告された。一市一土改の利点も活かし市全体を一括図面管理を行うほか、一部の長寿命化対策では工事の設計・積算から施工管理の支援業務まで手がけており、他市町村の活動の参考となる取組みを紹介された。

3. 越中いみず野 米一番 品質向上プロジェクト

高岡農林振興センター 農業普及課 射水班 主任普及指導員 田村 美佳 氏

いみず野ブランドとして促進している越中いみず野「米一番」(コシヒカリ)について、生産者自らが品質向上に努めるようサポートしたプロジェクトについて報告された。普及指導員らのサポートを受け生産者自らが、見て・触れて・考えることで生産意欲を高め、また課題解決に向けて自ら考え実践していくことで良質米生産地として確立していきたいとするもので、品質向上に向け関係者の連携による積極的な取組みを紹介された。